



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3720 号 2017.6.16 発行

“没イチ” という生き方



日本・下方邦夫ディレクター)
夫が他界 突然孤独に…

京都・宇治市に住む名取眞由美さん（66）。夫の繁さんが難病になり突然亡くなったのは8年前でした。繁さんは定年退職を目前に控えた59歳。退職したら夫婦で海外を巡ろうと老後の夢を話し合っていたやさきでした。



「定年退職後の夢はかなわなくなってしまいました。これまでのお礼も伝えられていません。してあげられることがもっとあったのではないとも思います。後悔がもの凄くありそれが苦しい」と名取さんは語っていました。

周囲の言葉もつらく

何も手に付かず、仏壇の前で一日中過ごす日々が続きます。外出を心がけ、気丈に振る舞おうとしたものの、名取さんを傷つけたのは周囲からの何気ない言葉や対応でした。



近所の方から「晩ご飯の準備で忙しいわ。いいわね、名取さんは、あなた一人だもんね」という言葉。「ご主人が亡くなったけどあの人、もう元気になっているわ」「死別したばかりなのに華やかな格好をしてバス停で待っているのを見たわ」

自分がそう言われていると聞いたこともありました。“遺族は控えめに生きていかなければいけない” そう求められているように感じ家に閉じこもりがちになっていきました。

“つれ合い亡くした”仲間と出会う

そんな名取さんの生活を変えたのは同じ境遇の人たちとの出会いです。配偶者を亡くした人たちなどで作る大阪のNPO法人、「遺族支え愛ネット」を知り去年から参加してみたのです。



11年前に60人程度で始まったこの団体にはいま、関西を中心におよそ200人の会員がいて、定期的集まって悲しみを打ち明け合っています。

出かけた先々で、「妻と一緒にここに来た時のことを思うと涙が出そうになる」という男性。

妻の衣類のにおいをかぎ、「妻を思い出している」という死別したばかりの男性。

「自分から一歩前に行かないと行けない、年老いている場合ではない」と積極的に外出するようにしているという女性。

配偶者を亡くした人たちにもらったのは「周囲を気にせず、希望を持って生きる勇気」だと言います。

「つらくて涙を流してきた人たちだから、言葉にしなくても通じ合うものがあります。そうした人と知り合っている間に自分も変わっていく気がします」。名取さんはそう話していました。



そしていま… 最近、名取さんは、

そして何より夢中になれるものを見つけました。フィギュアスケート・羽生結弦選手。応援をしに国内外のスケートリンクを訪れるようになり、新しい世界に目が向くようになりました。

そして、こう語ってくれました。

「完全に立ち上がることはできなくても、時間はかかっても気持ちが軽くな

る日は必ず来ます。夫がいつか迎えに来てくれた時に、あれから私こんなことしたよ、あんなことしたよと、楽しい報告ができたらと思います」

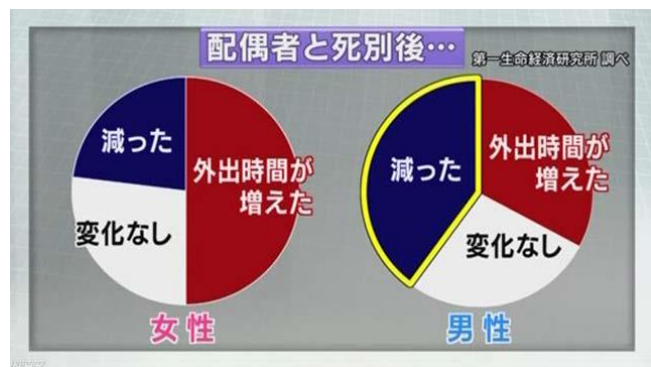
死別後 男性は孤立傾向

さて「没イチ」の人たちですが、女性に比べ男性の方が孤独に陥りやすいことが分かってきました。

長年、老後の生活などについて研究してきた第一生命経済研究所、主席研究員の小谷みどりさんは、配偶者を亡くし、1人で暮らす高齢者について調査し、ことしその結果をまとめました。

配偶者の死後、女性は半数の人が「外出時間が“増えた”」と答えましたが、男性はその反対。「外出時間が“減った”」と答えた人が最も多いのです。つまり男性の方が孤立しやすい傾向が確認されました。

小谷さんによると「男性は妻より先に自分が死ぬんだと思い込んでいる人が多いのです。唯一頼りにしていた妻がいなくなると、路頭に迷ってしまう男性がすごく多い」のだそうです。



男性も多く参加 “没イチの会”

そこで、小谷さんが中心となって始めたのが「没イチの会」です。講師を務める生涯学習の受講生に呼びかけたところ、配偶者を亡くした男性が参加するようになりました。

会では、亡くなった配偶者の話ではなく、今の生活やそれぞれの趣味の話が中心です。去年から参加している田中嶋忠雄さんは会合で自分が育てた庭いっぱいバラの写真を見せていました。



庭作りは5年前に妻と死別してから、その供養のために始めました。

没イチの会に参加することで、庭造りの話をする仲間を得ることができたのです。

田中嶋忠雄さんは、「“おーすごい”とかほめられるとうれしい。落ち込んでいたら、かみさん悲しんじゃうんじゃないかと思う。“私が先立った後はもう元気にやってください”って言うのではないかな」と話していました。

な」と話していました。

この会では男性一人ではなかなか申し込みにくい旅行なども企画し、気兼ねなく外に出られる機会を作っていく予定です。

亡くなった人の分も生きる

小谷さんも実は夫を亡くしています。そのうえで『亡くなってしまった配偶者の分、残された私たちは人生を楽しむ義務があるんだ』と申し上げています。ひとりになった人たちがどう立ち上がっていくのか、支え合える会が地域の中にどんどんできていけばいいなと思っています」と話し、配偶者と死別した男性も女性も暮らしやすい仕組みづくりが今後の社会でより求められると説明しました。



もういちど“没イチ”という言葉について

「没イチ」という言葉、なかには嫌な印象を抱く方もいると思います。同時に、第三者が、死別した人に気軽にかけていい言葉ではないとも思います。

一方で、取材させていただき、みずからを“没イチ”と呼ぶ方々からは「人生の後半、残りの人生を妻・夫の分も豊かな人生を全うしよう」という気持ちと亡

くなった配偶者への深い愛情を感じました。

配偶者を亡くした人は65歳以上だけで860万人以上います。その数は年々、増え続けています。夫婦、また、パートナーと暮らしている間はなかなか想像できない、想像しにくいことですが、誰にでも起こりえるのが“没イチ”です。悲しみを乗り越えるのではなく悲しみを抱えながらも1人となった人生と向き合うその大切さを知りました。

スマホ片手に生涯の伴侶を——結婚相手や恋人をオンラインで探すサービスが急速に



増えています。「一生、結婚するつもりはない」と考える人が増える一方、「結婚はしたいが、恋人がいない」という人は国内で720万人に上るといふ推計もあります。アメリカでは、結婚したカップルの3分の1がネットを通じて出会っているという調査結果も。IT時代の新たな出会い、日本でも広がっていくのでしょうか？
(経済部・野上大輔記者／小田島拓也記者)

コミュニティー恋愛はリスク？

結婚を希望していながら、恋人がいない人は、推計で720万人。最も多い理由は男女ともに「出会いがない」——情報サービス会社のリクルートマーケティングパートナーズが国勢調査のデータやアンケート調査をもとにまとめた報告です。出会いのきっかけとして思い浮かぶのは、職場や学校、友人の紹介といったところでしょうか。

しかし、最近の若い人たちは、こうした“コミュニティー内恋愛”に消極的だといいます。リクルートの調査では、コミュニティー内恋愛に「なんとなく気が引ける」という回答が、20代の男性で32%、20代の女性では40%に上りました。他人との調和を大切に、ふられるリスクを気にして告白をためらう傾向があると言います。かわって、若い世代に浸透しつつあるのがネット恋活（こいかつ）、ネット婚活です。出生数や婚姻件数が過去最低となり、一見、市場は縮小していきそうなこの分野に、IT大手やベンチャー企業が相次いで参入しています。

いいね！から始まる恋

IT大手のサイバーエージェントは、未婚率が上昇している日本の現状をビジネスチャンスと捉えています。「婚活アプリ」を注力分野と位置づけ、現在4つのサービスを展開。年内に、さらに2つのサービスを始める計画です。最も多い230万人の会員数を持つアプリ、「タップル誕生」は、自分の興味のあることや趣味や収入、そして相手に求める性格や趣味などを入力すると、条件に合った相手のプロフィールが表示されず。膨大なパートナー候補の中から、相性のよさそうな相手を“効率的に”探せることが売りです。



深澤 健人さん 葉寿季さん

静岡市に住む深澤健人さん(24)は、このアプリで結婚相手を見つけました。工務店で働いていた深澤さんは、社会人になると仕事場での出会いが少なく、アプリの利用を始めたといいます。そこで多くの会員の中から葉寿季さん(28)と出会います。深澤さんは葉寿季さんの写

真と「お酒が好き」というプロフィールから直感的に好意を抱きました。そこで、画面上の「いいね」を押すと、「ありがとう」という返信が来て、連絡を取り合うようになりました。深澤さんは「気楽な『いいね』から始まった恋です。互いに趣味や好みがわかったうえでメッセージをやり取りするので話が弾みました。まさか運命の相手がネットにいるとは思いませんでした」と話します。交際を始めて1年、深澤さんがプロポーズをして2人は結婚に至りました。

このアプリは、1日4000人が新たに登録し、会員数は増え続けているといいます。サイバーエージェントの合田武広さんは「若い人にとって、コミュニティー内での恋愛のハードルは上がっているの



サイバーエージェント
マッチングアプリ統括責任者
合田武広さん

で、少子化という社会課題をテクノロジーで解決し

ていきたい。まだまだ市場は伸びると考えている」と話しています。

ウエディング業界からも参入

結婚情報誌「ゼクシィ」を企画制作しているリクルートマーケティングパートナーズも、オンラインサービスを強化しています。出生数や婚姻件数の減少といった逆風の中、結婚式場の情報や花嫁の心得といった、すでに結婚が決まった人向けの情報だけでなく、出会いを求める人にもターゲットを広げる戦略で、恋人を探すアプリと、ネット婚活サービスを手がけています。

このうち、ネット婚活サービスは、18の質問に答えると、価値観や相性が合う相手が毎日4人ずつ紹介される仕組みです。紹介する相手の選択には、「ゼクシィ」が、既婚の男女6000人を対象に行った調査のデータが生かされています。ネットを通じて相手



と会うのが不安という声を踏まえ、連絡先などを相手に伝えなくても、コンシェルジュが間に入って、デートの調整を代行するサービスも行っています。会社では、10代のころに、すでにスマホが普及していた若い世代は、ネットを通じた出会いのサービスを受け入れる素地が整っていると分析しています。

婚活事業を統括する貝瀬雄一さんは「コミュニティ内では出会うチャンスがなかった相手とも知り合うことができる。結婚したくても結婚できない人をゼロにするのが目標です」と力がこもります。

拡大する市場 安全性は？

こうした恋愛の相手をオンラインで探すサービス。国内の市場規模は、去年1年間で7



5%増えて208億円に達し、5年後には577億円に拡大するという予想もあります。
(マッチングエージェント調査)

一方で、ネットを通じた出会いに不安を感じる人も少なくありません。1990年代後半以降、大きな社会問題となったいわゆる「出会い系サイト」では、悪質な業者が横行し、未成年者が犯罪に巻き込まれる被害が相次ぎました。このため、各社ともに、会員を保護する安全対策に力を入れています。

サイバーエージェントやリクルートなどの運営会社は、パスポートや運転免許証などの提出を義務づけ、18歳未満の利用や不正な会員登録を防ごうとしています。また、会員同士のメッセージは24時間常に監視して、怪しいやり取りが見つければ、利用停止などの措置をとっています。

「タップル誕生」の画面



さらに踏み込んだ安全対策を講じている会社もあります。恋愛アプリの「Omiai」を展開するベンチャー企業の「ネットマーケティング」は、利用者に本人のフェイスブックの登録情報と連携させることを義務づけています。そして、フェイスブックの登録情報で「既婚」や「婚約中」または「交際中」となっている場合、アプリは利用できない仕組みになっています。さらに、会員から不審なユーザーについて通報を受け付ける制度も設けています。安全に利用するためには、こうした安全対策を十分に見極めることが重要です。

取材を終えて

フェイスブックやツイッターといったSNSに親しんでいる若い人たちには、恋愛相手をネットで探すことに、ほとんど抵抗感がないように感じました。ネット上にプロフィールを公開し、人とつながることを前向きに捉える素地があるようです。市場が広がり、新たな企業の参入が増えるほど、安全性をいかに担保するかが課題となります。それでも、爆発的に普及したネット通販と同じように、手軽さと豊富な“選択肢”を武器に、恋人や結婚相手をネットで探すのが当たり前という時代は、案外、間近に迫っているのかもしれない。

プール熱って？大流行の兆し

NHK ニュース 2017年6月16日

「プール熱」ってご存じですか？「プールで体が冷えてかかるかぜ」ではありません。

ウイルス性の感染症で、夏場に幼い子どもがかかりやすい感染力の強い病気なんです。大人がかかることもあり、ことしは、ここ10年で最も流行する兆しも出ています。プール熱とはどんな病気なのか？かからないためにはどうすればいいのか？詳しく解説します。(ネットワーク報道部・戸田有紀記者、清有美子記者、岡田真理紗記者)

プール熱とは

プール熱は正式には「咽頭結膜熱」といいます。「アデノウイルス」というウイルスによって引き起こされる感染症で、このうち、目が真っ赤に充血したり、目やにが出たりするなど結膜炎の症状が出るものを指します。

そのほかの症状に38度から40度の発熱、扁桃腺の腫れやのどの痛みなどがあり、これらが1週間程度続くとされます。

夏場に流行することやかつてプールの水の消毒が不十分で流行することがあったことからプール熱と呼ばれるようになりました。

現在は塩素濃度の管理の徹底などで、プールでの感染がほとんどなくなり、その反面、せきやくしゃみなどの飛まつやウイルスが付いたタオルを使うことなど日常生活での感染が多くなっているということです。

平成12年ごろからは医療機関で簡単に検査ができるようになり、のどの奥の粘膜をこすり取っておよそ10分程度で陽性かどうか分かります。

プール熱は感染力が強いため国立感染症研究所は、発熱や結膜炎の症状が出て「かかったかな」と思ったら感染を広げないためにも早めに医師の診察を受けるよう薦めています。

ことし大流行の兆し

プール熱の感染のピークは例年、7月から8月にかけてですが国立感染症研究所によりますと、ことしは全国的に発症の報告が相次ぎ、先月28日までの1週間に全国およそ3000の小児科の医療機関から報告された患者の数が、前の週から820人増えて2867人となっています。

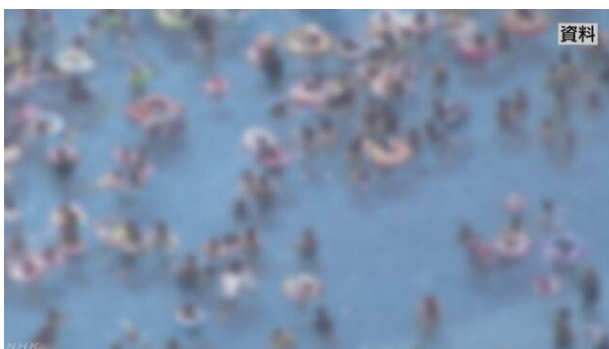
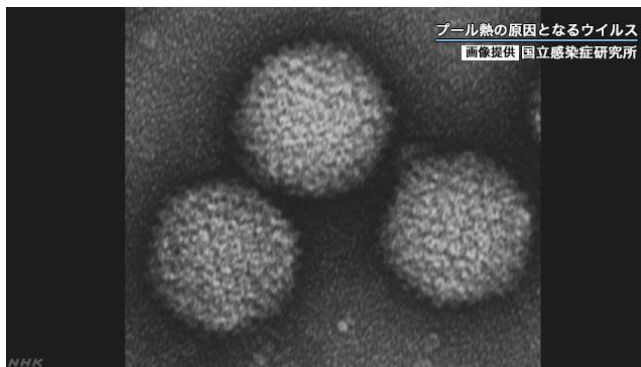
これを基にした1医療機関あたりの患者数は0.91人となり、ここ10年で最も流行する兆しが出ているということです。

また、患者全体のおよそ6割を5歳以下の子どもが占めていて幼い子どもがかかりやすいともいえます。

仕事に行けない！親の悲鳴

インターネット上には保育所や幼稚園などに通う子どもがプール熱にかかって悲鳴をあげる親からの投稿が相次いでいます。

「子どもの目の赤みが気になって眼科に行ったらプール熱。完治に早くて3日、長いと2



週間かかると…仕事に行けなくて今月の給料が恐ろしくて熱出そう」

「娘が体調崩して1週間たってやっと落ち着いてきたなと思ったら息子が発熱して、まさかのプール熱で地獄」

プール熱はインフルエンザなどと同じ文部科学省が指定する学校感染症の1つで、発熱や結膜炎の症状が消えた翌日から2日を経過するまでは、出席停止とされています（小児科の医師が認めればそれ以前でも登校可能）

このため、子どもがかかると看病する親が仕事に行けない期間が長くなってしまいうつまいのです。

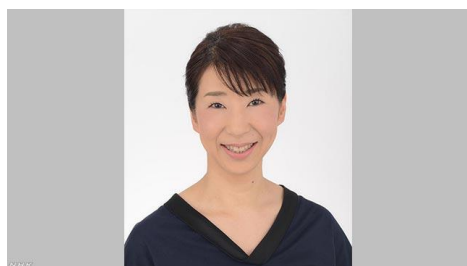


まれに重症化も

プール熱にかかったらどうやって治すのか。国立成育医療研究センター総合診療部救急診療科の植松悟子医長によると、プール熱の治療に特効薬などはないということです。

ほとんどの場合、自然に治りますが、免疫力が低下しているとまれに重症化することもあるということです。

また、十分に水分がとれず脱水症状を併発することもあるといい注意が必要です。



どう防ぐ？

では、どうやって感染を防げばいいのか。植松医師は3つのポイントを挙げています。

(1) 患者との接触を避ける。(2) マスクをしてうがいや手洗いをしっかり行う。(3) タオルなどの使い回しをやめ、ドアノブなど人の手が触れるものを積極的に消毒することです。

消毒について気をつけるべきは、最近はやりのア

ルコール消毒では効果がないということです。

手を洗う際はアルコール消毒ではなく、石けんをつけて10秒から15秒、しっかり洗う必要があります。

ドアノブなども同様で、塩素系の漂白剤を含む水で濡らした布でこまめに拭く必要があります。

プール熱の原因となるウイルスは、いったん机やドアノブに付くと10日間程度生き続けることができ、感染した人の唾液や目やになどには、ウイルスが10日ほど潜伏し続けるそうです。

このため症状が治まっても、ほかの人にうつさないようしばらくの間マスクをしたり手洗いなどに気をつけたりする必要があるということです。

昔から「夏の病気はやっかい」といわれます。植松医師は「感染したら子どもでも大人でも無理に集団生活に入らず水分を十分にとって休息すること。症状を悪化させないためにも周囲にうつさないためにも大切です」と話していました。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行